

■2018年度 全国学力テスト結果でした(その1)

～概要・今回の結果の見方～

先日7月31日、文部科学省は、2018年度全国学力・学習状況調査(通称全国学力テスト)の結果を公表しました。全国学力テストとは、2007年から日本全国の小中学校の最高学年(小学6年生、中学3年生)全員を対象として行われているテストです。その内容としては、毎年行なわれる算数・数学と国語、2012年から3年に1度行なわれている理科の3科目で、それぞれ知識力を問う問題(A)と知識を活用する力を問う問題(B)の2種類に分かれています。

■ 英智学館のある県と上位県・仙台市の平均点比較【小学生】

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
青森県	75	57	65	53	62	石川県	76	61	68	59	66
岩手県	74	57	63	51	61	福井県	76	57	66	56	64
宮城県	69	53	62	49	59	東京都	74	57	67	55	62
秋田県	77	61	67	57	66	仙台市	71	54	64	52	61
山形県	71	54	63	51	62	全国平均	70.9	54.8	63.7	51.7	60.4

※文部科学省資料より作成

■...上記内で最も高い点

■...上記内で最も低い点

小学校の平均正答率を都道府県別にみると、国語Aは1位「秋田県」、2位「石川県」・「福井県」、国語Bは1位「秋田県」・「石川県」、3位「広島県」、算数Aは1位「石川県」、2位「秋田県」・「東京都」、算数Bは1位「石川県」、2位「秋田県」、3位「福井県」、理科は1位「秋田県」・「石川県」、3位「福井県」。結果として、秋田県と石川県、福井県の好成績が目立ちました。

■ 英智学館のある県と上位県・仙台市の平均点比較【中学生】

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
青森県	77	61	67	46	68	富山県	78	63	70	51	70
岩手県	76	61	62	43	65	石川県	79	65	71	52	71
宮城県	77	62	65	47	67	福井県	79	64	72	53	71
秋田県	80	66	70	51	70	仙台市	79	65	70	52	71
山形県	77	61	65	46	68	全国平均	76.4	61.7	66.6	47.6	66.5

※文部科学省資料より作成

■...上記内で最も高い点

■...上記内で最も低い点

中学校の平均正答率を都道府県別にみると、国語Aは1位「秋田県」、2位「石川県」・「福井県」、国語Bは1位「秋田県」、2位「石川県」、3位「福井県」、数学Aは1位「福井県」、2位「石川県」、3位「秋田県」・「富山県」、数学Bは1位「福井県」、2位「石川県」、3位「秋田県」・「富山県」、理科は1位「石川県」・「福井県」、3位「秋田県」・「富山県」。結果として秋田県と石川県、福井県、富山県が上位を占めております。

東北地方の特色として、小学校国語に関しては、「青森県」・「秋田県」・「岩手県」・「山形県」は全国平均を上回っておりますが、「宮城県」は平均を下回っております。小学校算数に関しても同様です。中学校に関しては、中学校数学に関して、岩手県がワーストに入っております。



授業で課題に向けて、自ら考え、進んで取り組んでいると前向きに考えている小中学生が増えている!!
というアンケート結果も出ています!!

このように、東北地方の小中学校の全国学力テストの結果は善戦しておりますが、残念ながら大学入試に必要なセンター試験の結果となると極めて厳しくなります。「首都圏は私立専願者も多いから国立志向の東北は下がる」という要素もありますが、東北よりも国立志向の高い「石川県」や「福井県」のセンター試験における善戦を見ると、それだけではないようです。(次回に続く)

■『ながら』勉強は絶対にダメ!!

一生懸命勉強して「その勉強、本当に身になってる?」と言われると「???」となる人も多い気がします。そこで、最近の脳科学で言われていることを踏まえ「身になる勉強」に関して、少しお話してみたいと思います。

今回のテーマ『ながら』勉強(テレビ見ながら、音楽聴きながら、スマホいじりながら...)は私が今まで読んできた、脳科学の本で共通して「絶対ダメ!!」と書かれております。何故なら、人の脳は、色々な処理を同時に行なう「マルチタスク」をしてしまうと、本来脳が持っている能力が、かなり損なわれるそうです。

自分の大事な時間をたくさん使って、「音楽を聴きながら」「動画を見ながら」「ゲームをしながら」「SNS見ながら」など他の事をやりながら、身にならない勉強をするよりは、しっかりメリハリをつけて、「勉強するときは勉強に集中!!」「音楽を聴くときは聞く!!」「動画を見るときはそれを楽しむ!!」「遊ぶ時はしっかり遊ぶ!!」ことが、後々にしっかり力も付きますし、自制心も付いて色々な場面で生きてきます。

しかしながら、ここ最近普及してきた「スマホ」はかなりの大敵です。スマホ一つで、楽に調べ物もできますし、音楽も聴けますし、動画も見ることができますし、ゲームもできますし、、、何でもありです。中でも一番の大敵は「SNSなどで、友人同士やり取りをする事」が、、、実際携帯が近くにあり、携帯電話を見ないにしても、連絡が来た音が鳴るだけで、集中力低下に大幅な影響を及ぼすようです。

使い方 考えよう!!

- ・楽に調べ物ができる!!
- ・友だちと簡単にやりとりができる!!
- ・効率良く色々なコンテンツで遊べる!!

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

「楽」・「簡単」・「効率が良い」ことは良いことですが、「頭を鍛える」ことにはつながりません!!!

脳トレで有名な川島教授は、ご自身の書籍や雑誌の対談で「スマホ」に関して警鐘を鳴らしています。スマホで何かを調べる際も、辞書で調べるよりも脳の血流が下がり、脳が働かないようです。確かに調べ物をする際は、かなり楽ですが「脳が楽な状態」を覚えてしまうと、成績に大きく影響するというデータも出ています。川島教授はスマホを使用している子どもの調査をここ数年行なっていて、スマホを1日1時間以上使用している子どもの成績が良くないという結果を出しています。

どちらにしても『ながら』勉強にならない方法、特にスマホとの付き合い方はしっかり考えていく必要があります。スマホは非常に有益なものでもありますが、使い方を間違えると大変なことになります。まずは『ながら』勉強を脱却し、『メリハリ』勉強をできるよう、しっかり自分自身を鍛える必要があるようです。

今月の格言・金言 「一生懸命というのは自分で決めるものではない、他人に認められて初めて一生懸命と言えるんだ」～星野仙一～

勉強やスポーツで『一生懸命頑張った』と自分自身で決め込んでしまう事はありませんか? そんな時、『それは本当に一生懸命だったのか?』『自分勝手に限界を定めてはいないか?』と一度振り返ってみましょう。『まだできたかも』『もっとできたかも』と振り返り、その振り返りを積み重ねる事が大事かと思えます。その積み重ねで、初めて他の人に認められる『一生懸命』に到達でき、自分自身成長できたと思えるのではないのでしょうか。

英智

学習通信

2018年10月

編集:英智学館 教務情報課
電話 0120(740)981
HP <http://eichikan.co.jp/>